

南河内第二中学校区

【目指す子ども像】

(まなび) 主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども
 (こころ) 思いやりの心を持ち、自他を大切にできる子ども
 (からだ) 健康に関心を持ち、体力向上に励む子ども
 (つながり) 社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども

【実践研究課題】

実践研究【聞いて考える力の育成】 教育活動全体を通して、聞いて考える力を育て、相手の考えや気持ちを理解し、自分の考えを深めることができる子どもを育成します。重点教科(小学校:国語、中学校:各教科)

各部会の取組

<学習指導チーム>

【児童生徒の実態】

学力の高い児童生徒がいる反面、個別指導が必要な児童生徒が増えてきており、学習に限らず、学級経営にも工夫が必要である。興味・関心のあることについては積極的に発言できるが、集団や他の意見に対しては、関心がやや薄く、話し合いながら問題を解決したり、学びを深め合ったりする力に課題がある。また、タブレットの活用において、キーボードを使用する機会は少なく、使用する時でも、小学生はローマ字表を見ながら行うため、タイピングに時間がかかる。

【部会のねらい】

他者の考えを受容しながら聞くことにより、更に自分の考えを広げ深められるような「豊かな対話力」を育成する。「豊かな対話力」の土台となる「聴き合う力」の育成を目指す。小学校では、重点教科を国語とし、中学校では、特に教科を定めずに各教科で実践する。タイピングにおいては、9年間を見通してその育成を図る。小学校低中学年では、慣れ親しむ、高学年では、簡単な文章の作成、中学校では、長い文章の作成を目指す。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	①「豊かな対話力」の土台となり、「聴き合う力」を育成するための実践・情報交換(板書・ノート・ワークシート等) ②小中学校相互の授業参観(S&U、要請訪問等) ③タイピングタイムの設定(進捗状況の確認・評価) ④相互乗り入れ授業の実施
成果	取組①について→各校ともに「聴き合う力」の育成は向上できた。意識的に発表する場を設け、聴く力を高めることができた。そして、聴いて自分の考えを伝えるというアウトプットする力も身に付いてきている。学習の苦手な児童でも参加しやすくなった。児童の対話したい思いを高めるために、学習計画シートを用いたり、対話してみたい友達と自由に対話させて、聴き合う力を高めさせた。また、対話の仕方もペアやグループの机の並びを工夫することで、より効果的になった。8月と11月に各校の実践を伝え合うことで、他校のよい部分を取り入れることができた。 取組②について→他校のS&Uに参加することができた。 取組③について→各校ともタイピングのスピードが上がってきた。特に、小学校中学年において、ローマ字の定着が見られてきている。 取組④→小中間で相互に乗り入れ授業を実施することができた。
課題	取組①について→各校ともにS&Uなどの研究授業では、うまくいっているが、日頃の授業に生かし切れていない。小学校においては、国語を中心に研究してきたが、他教科にも生かす(教科横断的な活動にする)点において、不十分であった。日頃からの積み重ねが重要になってくる。また、子供たちの主体性を伸ばしたい思いはあるが、教師側がやらせたいことと、子供たちがやりたいことに差があった場合、どう進めるかに課題が残った。グループ活動の際に、記入したプリントを見せるだけで終わってしまう場合がある。教員からの発問や問いかけの仕方を工夫する必要がある。「聴き合う力」をさらに向上させるためには、日頃の学級経営が重要で、言いたいことが言える雰囲気や自分の考えに自信をもたせる必要がある。 取組②について→他校の授業参観ができた先生は、一握りでなかなか見に行けていない。自分も持っている授業の兼ね合いもあり、自校の一人一授業でさえ、見に行けていないところに課題がある。 取組③について→破損が多い。現在使用しているアプリに繋がらない場合がある。学校行事等で時間の確保が難しい。発達段階において差がある。キーボードに慣れてきているが、普段の授業ではあまり使われていない。現在使用しているアプリに飽きてきている様子も見られる。



祇園小6年生:国語「時計の時間と心の時間」



緑小3年生:国語「三年とうげ」



二中2年生:技術「最適なエネ」



タイピングタイム(緑小)